

1 単元 「球技（ネット型）～ヘルスパレーボール～」

2 指導観

- SNSの普及や遊び場の減少、また、コロナ禍における自粛生活により、直接的なコミュニケーションの機会が奪われている。遊び・競争・身体活動を要素とするスポーツを通して、感性を培い、協働による運動の喜びを感じ、自己実現の過程における達成感を味わうことが求められる。

本単元では、相手コートからくるボールを拾い、自コートでボールをつないで相手コートに意図的に返球することができるようになることをねらいとする。学習内容としては、ヘルスパレーボールの特性、基本的なパス、各ポジションの役割、ハイタッチの効果、ポジションチェンジの方法、ゲームの分析方法、効果的な返球場所等がある。本単元は、6人制のネット型の競技である。他の球技と異なりボールを保持することができず、はじくことのみが許されている。使用するボールはバレーボールに比べて大きく、楕円形で軽く、落下速度が遅いため、比較的コントロールがしやすい。しかし、一人で1度に2回以上触れることができず、また、1回の触球でも返球ができないため、チームでの役割分担や積極的なプレイが保障されたチームの雰囲気づくり等の協働的な取り組みが求められる。また、互いに積極的なプレイが認められた中で意図的に返球し、得点できるとチームに貢献できた喜びや達成感を味わうことができるため大変意義深い。

- 本学級の生徒は、体育に対する関心が大変高い生徒が多く、どの単元においても意欲的に参加する姿が見受けられる。出身小学校が異なる生徒が多いため、小学校での運動経験も多種多様である。事前の調査では、小学5・6年生時に経験したネット型球技はソフトバレーボールが4割、バレーボールが4割、その他が2割であり、ヘルスパレーボールの経験がある生徒はいなかった。また、ネット型球技が好き、または、どちらかといえば好きと答えた生徒は〇割おり、その主な理由が「ボールをつなげることが楽しい」「チームで団結できる」などであった。これは、ネット型集団球技の特性であるボールをチームで連携して返す楽しさを実感しているからだと考えられる。一方、嫌い、または、どちらかといえば嫌いと答えた生徒は〇割おり、その主な理由が「ボール操作が難しい」「どこに返せばいいかわからない」などであった。これは、ボール操作技術の難度が高く、ネット型集団球技の構造を十分に理解できてなく、一部の生徒だけでプレイが行われたことが要因であると考えられる。以上のことより、比較的コントロールがしやすいヘルスパレーボールを使い、ネット型集団球技の構造をチーム全員が理解できるような協働的な課題設定やゲーム分析を通して、習得した技能をゲームで発揮させやすくすることが必要であると考えられる。

- 本単元の指導にあたっては、ネット型集団球技の構造を理解できる協働的な課題を設定し、ICT機器を活用しながらゲーム分析する活動を中心として、課題を解決できる学習を仕組む。そのためにも、ヘルスパレーボールの特性を捉え、本単元の見通しをもたせる。ここでは、ヘルスパレーボールの特性を捉えさせるために、試しのゲームをさせ、ボールの特徴について問う。次に、ゲームを行い、自己やチームの課題の解決に取り組ませる。ここでは、ネット型集団球技の基本的な構造を捉えさせるために、共有の課題「ボールをネット際に運ぼう」を提示し、取り組ませる。また、前衛と後衛の役割分担の必要性を捉えさせるために、上級者のプレイ動画を特定のプレイヤーを視点に視聴させ、そのプレイヤーの動きの特徴を問う。さらに、ゲームを行い、自己やチームの課題の解決に取り組ませる。ここでは、ネット型集団球技の発展的な構造を捉えさせるために、ジャンプの課題「ねらった場所に返そう」を提示し、取り組ませる。また、ゲーム中の動きを俯瞰的に捉えさせるために、ゲーム中のプレイを撮影させ、個々の動きについて各ポジションの役割の視点から成果と課題をまとめさせる。最後に、リーグ戦を行い、合理的な戦術についてまとめさせる。ここでは、合理的な戦術を捉えさせるために、レポートにまとめさせる。

3 目標

- ヘルスパレーボールの特性や各ポジションの役割、ゲーム分析の方法を説明すること及び、各ポジションに応じたボールコントロールやポジショニングをゲームで行うことができる。
- ゲームでの攻守における自己やチームの課題を把握して、課題解決のための合理的な方法を考案することができる。
- 安全に留意し、互いに協力して練習に取り組み、公正な態度でゲームに臨もうとしている。

4 計画（10時間）

知：知識・技能 思：思考・判断・表現 態：主体的に学習に取り組む態度

次	配時	学習活動・内容	手だて（○）研究に関する手だて（◎）	評価規準
一	1	1 ヘルスバレーボールの特性を捉え、本単元の見通しをもつ。 ・ヘルスバレーボールの特性	○ ヘルスバレーボールの特性を捉えさせるために、試しのゲームをさせ、ボールの特徴について問う。	態：積極的にゲームに参加しようとしている。
二	3	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">学習課題（共有の課題） ボールをネット際に運ぼう。</div> 2 ゲームを行い、自己やチームの課題の解決に取り組む。 ・ルール ・オーバーハンドパス ・アンダーハンドパス ・前衛の役割 ・後衛の役割 ・セッターの役割 ・スパイカーのポジショニング ・ハイタッチの効果	○ 各ポジションの役割を果たし、ネット際にボールを集めて返球することができるようにするために、各ポジションの役割について問い、ボールをネット際に集めるための効率の良い練習方法を紹介する。 ◎ 前衛と後衛の役割分担の必要性を捉えさせるために、上級者のプレイ動画を特定のプレイヤーを視点に視聴させ、そのプレイヤーの動きの特徴を問う。【B3】 ○ 返球の直前にボールがネット際に集められているか把握させるために、ゲーム中におけるボールを返球した味方の位置を記録させ、チームの得点との関連性について問う。	知：前衛と後衛の役割について説明できる。 知：各ポジションの役割について説明できる。 知：各パスの原理を理解し、正確に行うことができる。
三	3	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">学習課題（ジャンプの課題） ねらった場所に返そう。</div> 3 ゲームを行い、自己やチームの課題の解決に取り組む。 ・ポジションチェンジの方法 ・ゲームの分析方法 ・効果的な返球場所	◎ 攻撃時のセッターの動き出しのタイミングと構えの向きを捉えさせるために、上級者のプレイ動画を視聴させ、動きの特徴について問う。【B3】 ◎ ローテーションの影響を受けることなく固定したポジションでプレイできる方法に気づかせるために、昨年度の3年生のポジションチェンジをしている動画を視聴させ、工夫点について問う。【B3】	知：各ポジションに応じた役割分担の重要性について記述することができる。 思：チームの特性に応じた戦術を考案することができる。
	本時		◎ ゲーム中の動きを俯瞰的に捉えさせるために、ゲーム中のプレイを撮影させ、個々の動きについて、各ポジションの役割の視点から成果と課題をまとめさせる。【C5】	思：チームの課題を把握し、解決方法を提案することができる。
四	3	4 リーグ戦を行い、合理的な戦術についてまとめる。 ・公正な態度の重要性 ・ヘルスバレーボールの価値 ・ネット型集団球技の合理的な必勝法	○ 公正な態度の重要性を捉えさせるために、審判団の価値について問う。 ○ ヘルスバレーボールの価値を捉えさせるために、単元を通して経験したヘルスバレーボールの良さについて問う。 ○ 合理的な必勝法を考案させるために、2つの課題を解決する際に学んだ学習内容を踏まえてレポートにまとめさせる。	知：公正にリーグ戦を行うための要点を説明することができる。 態：互いに協力しながらリーグ戦を運営しようとする。 思：合理的な必勝法を考案することができる。

5 本 時 令和3年〇月〇日 (〇) 第4校時 計画 第三次の3 体育館にて

(1) 主 眼

○ 動画撮影によるゲーム分析を通して、チームの課題を把握し、解決方法を提案することができる。

(2) 準 備

①意図的に返球している動画 ②タブレット ③振り返りプリント

(3) 過 程

学習活動・内容	準備	手だて (〇) と研究に関わる手だて (◎) 評価 (◇)	形態	配時
<p>1 相手チームが返球しづらい返球場所を確認し、本時のめあてを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 効果的な返球場所 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>めあて 相手が返球しづらい場所に返そう。</p> </div>	①	◎ 相手チームが返球しづらい返球場所を捉えさせるために、昨年度の3年生がゲーム中に意図的に返球している動画を視聴させ、その意図について問う。 【B3】	一斉	10
<p>2 チーム練習を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 正確なパス動作の重要性 		<p>○ パスをつなげて、ねらった場所に返球することができるようにさせるために、各パスを正確な動作で行う重要性について説明する。</p> <p>○ 各ポジションの役割を果たし、ネット際にボールを集めて、ねらった場所に返球することができるようにさせるために、壁をネットに見立てた練習をさせる。</p>	チーム	10
<p>3 ゲームを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ゲーム分析の視点 	②	<p>◎ ゲーム中の動きを俯瞰的に捉えさせるために、ゲーム中のプレイを撮影させ、個々の動きについて、各ポジションの役割の視点から成果と課題をまとめさせる。 【C5】</p> <p>○ 積極的な姿勢でゲームに臨むことができるようにさせるために、得点した際にハイタッチをするよう指示する。また、ハイタッチが不十分な際に助言する。</p> <p>○ 役割分担ができていないかフィードバックさせるために、役割分担をしてボールを返球したチームをその場で称賛する。</p>	チーム	20
<p>4 本時の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 各ポジションに応じた役割分担の重要性 	③	<p>○ 各ポジションに応じた役割分担の重要性を捉え、本時の学習内容を整理させるために、学習プリントに本時の学習活動を通して実感したことをまとめさせる。</p> <p>◇ 各ポジションに応じた役割を果たそうとする際に出たチームの課題を把握し、解決するための方法を各ポジションの役割の視点から記述できたか。</p> <p style="text-align: right;"><学習プリント分析></p>	一斉	10